

(新連載)

# ゆたか倶楽部 ものがたり

## 「クルーズ」前史 ①

「クルーズのゆたか倶楽部」は1984年に創業。日本クルーズ業界の黎明期から現在までを同社創設者・クルーズマスターの松浦睦夫氏が同社の歴史とともに語る新連載。



スワイヤー・グループ(香港のキャセイパシフィック航空などの親会社)に属した「コーラル・プリンセス」

私がクルーズ販売を手掛けるようになったのは、まだ「クルーズ」という旅行の呼び方が日本で一般化される前のことです。クルーズという言葉が使われるようになるのは1989年、いわゆる「クルーズ元年」と呼ばれた年からです。1967年、当時八丈島専門のパッケージツアーを手掛けていた東邦航空サービスという会社に就職しました。私は学生時代から根っからの旅行好きで、北海道の稚内から鹿児島島の枕崎まで旧国鉄で旅しており、日本中の観光地の主要な所はほぼ周りました。入社当初は当時「東洋のハワイ」

と称された八丈島へのパッケージ旅行の販売を担当しました。生まれて初めて飛行機に乗り、八丈島へ研修に行きました。東京の江戸川区、葛飾区、江東区、足立区、北区が営業担当エリアです。お客さまの指定の町内会館やお寺の本堂で、八丈島の出発から帰りまでをスライド上映する説明会をしました。初年度は15回ほど八丈島の添乗をしました。八丈島は私の足掛け50年となる旅行業の原点です。個人的な思い入れは深く、今でも東海汽船の「橘丸」を利用して年に数回ツアーを企画しています。1970年には大阪万博が開か

れませんでした。万博見学に温泉宿と観光を組み合わせた2泊3日のバス旅行に10回ほど添乗しました。入社時は社員35名だったのですが、万博景気に乗じ倍以上になり、続く沖縄海洋博(1975)・1976年開催)あたりから、沖縄、小笠原などへのチャーター船の旅へと会社は大きく舵を切りました。クルーズとの出会い

これが、今に続くクルーズとの出会いです。しかし先述のように「クルーズ」という言葉はまだ一般に理解されていなかったため、ツアーのタイトルは「船の旅」を掲げました。大島運輸(現マルエーフェリー)の運航する約3000トンの小型客船を年十数回チャーターしました。当時はフィンスタバライザー(横揺れ防止装置)も付いておらず、酔いする方も多かったです。小笠原へも寄港しました。初めて訪れたのは1971年で、母島はそのころ無人島で、野宿をしました。父島入港の際は小笠原支庁にトラック輸送の特別許可証をもらい、お客さまを一度に30~40人荷台に載せてピストン輸送し、観光をしました。小港海岸への道路



松浦睦夫(まつうら・むつお)  
長野市松代町出身。1967年大学卒業後旅行会社に入社。1984年「ゆたか倶楽部」創業。海外渡航歴171回、クルーズ業界の第一線に45年間立ち続け、2003年には日本外航客船協会が選定した初代「クルーズ・マスター」の一人に。2015年3月、31年務めた代表取締役を退任。現在は同社オーナー兼取締役。

ような船(二代目につぼん丸の姉妹船)で、今までの船とは雲泥の差でカルチャーショックを受けました。客室はツインが主体で、シヤワーまたはバスタブ付き。食事は2回制、有料ですがうどんや寿司のコーナーがあり、カジノ、講堂、プールもありました。当時、船旅に関する本は柳原良平著『船の本』、茂川敏夫著『船旅への招待』があるのみでした。これらの本は私のバイブルとなり、むさぼるように読んだものです。初めて乗船した「コーラル・プリンセス」はまさにこれらの本の世界でしか知らない船で、将来日本もこういう船の時代が来ればいいなあと思いました。日本に本格的なクルーズ時代が訪れるのはその後約18年を要します。1971年のグアム・サイパン

クルーズは夏ということもあり若者が3割。あとは年配の方、戦前に彩帆島と呼ばれたサイパンに住んでいた方が多数乗船し、バンザイ岬では慰霊祭を行いました。航海中に1ドルが360円から300円になり、乗客は円高の理由はわからないまま、船はレートがよいと話が広がり、船内の両替に長蛇の列ができました。帰国後わかったのはこれがいわゆるニクソン・ショックで、円相場が変動制に移った瞬間だったのです。会社は船旅を継続して販売しようと考え、国際見本市船として造られた初代「さくら丸」(約1万3000トン)の改造を船会社と計画し、1973年から沖縄海洋博までの3年間チャーター契約をしました。この頃、同級生の松崎明氏(現・小笠原専門旅行会社ナ

シヨナルランド会長)が私の紹介で入社しました。さくら丸の改装は、上級客室はそのまま残し、見本市用のスペースに2段ベッドと洗面付きの客室(4・6・8人部屋)をたくさん造りました。上級客室の食事は着席で2回制。エコノミークラスはセルフサービス、食事中は酒・たばこは禁止でした。ホールは2カ所で200名と400名収容でき、イベントや講演会などもできました。コーラル・プリンセスには及びませんが、今までの3000トンのクラスの船とはまったく異なり、販売すること自体がうれしくてたまりませんでした。初回のクルーズは電通から話のあった東芝創業100周年の記念イベントに決まりました。電通がその「日本一周30日間」をメデイ

アに発信すると、チャーターの問い合わせが急増しました。柳原良平画伯との思い出 この航海には今は亡き柳原良平画伯が講師として乗船しました。良平氏とはその後つきあいが続き、私が独立後1997年に本社ビルを竣工した際はビル一階の壁に日本の客船の絵を描いていただきました。「新さくら丸」「ふじ丸」「つぼん丸」「おりえんとびいなす」「飛鳥」……。その後「びいなす」「つくびいなす」「飛鳥II」と新造船の就航時にも快く来てくださり、サントリーブールを片手に新しい船を描いてくださいました。現在はデジタル処理を施し、新本社ビル地下の説明会場と横浜大さん橋の弊社横浜クルーズサロンに飾っています。(つづく)

YUTAKACLUB CRUISES チャーター特別企画

ぱしふいっくびいなす  
秋の日本一周クルーズ  
笑豊来福びいなすく〜ず  
横浜発着8日間  
2017年9月20日(水)~9月27日(水)

旅のポイント  
船内イベントのテーマは「笑豊来福(しょうほうらいふく)」。大喜利や漫才師「おぼんこぼん」さんのショーなど船内には笑いがあふれます。

- 1 ぱしふいっくびいなす初寄港の奥尻島と、浜田で招待ツアーを設定(下記参照)。
- 2 下関出航後、夕焼けの関門海峡を望みながらのデッキデイナーを実施

◆旅行日程

日次	寄港地	入港	出港
1	横浜		12:00
2	宮古	OP	10:00 17:00
3	奥尻島(初寄港)	招待ツアー	08:00 17:00
4	佐渡島(両津)	OP	08:00 17:00
5	宮津	OP	08:00 18:00
6	浜田	招待ツアー	08:00 09:00
	下関		16:00 17:00
7	高松	OP	08:00 17:00
8	横浜		17:30

◆最少催行人員:200名

◆旅行代金(2名1室利用の大人お一人様)

ステートルーム	J	H	G	F	E
	海側(丸窓)、シャワー・トイレ付	328,000円	338,000円	358,000円	388,000円
	海側(角窓)、シャワー・トイレ付	408,000円	408,000円	408,000円	408,000円
デラックスルーム	海側(角窓)、バスタブ・トイレ付	538,000円			
スイートルーム	海側、バルコニー、バスタブ・トイレ付	738,000円			
★寄港地OP無料	A	758,000円			
ロイヤルスイートルーム	B	1,208,000円			
★寄港地OP無料	A	1,288,000円			

招待ツアー

奥尻島 奥尻島島内一周ツアー  
青苗港▶球島山▶なべつる岩▶長浜海岸▶青苗港 (約2時間)

浜田 選べる3コース  
Aコース 歴史の町「萩」観光と元乃隅稲成神社  
Bコース 津和野と九州門司レトロ  
Cコース 安芸の宮島と世界遺産「厳島神社」

お問い合わせお申し込みは  
クルーズのゆたか倶楽部  
YUTAKACLUB CRUISES  
http://www.yutakclub.co.jp/ | 1984年創業日本で最初のクルーズ専門の旅行会社  
観光庁長官登録旅行業第1294号 クルーズのゆたか倶楽部株式会社  
社団法人 日本外航客船協会会員 社団法人 日本旅行業協会正会員  
東京本社 TEL03(5294)6261  
大阪クルーズサロン TEL06(6455)0931  
横浜クルーズサロン TEL045(227)8211